

令和6年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

# 医療現場の業務DXに資する AI人材育成に向けた学科転換事業

## プログラム開発委員会

令和7年1月22日 10:00~11:30

進行資料

# 事業の目的・背景

## ■目的

医療事務の実務を支える診療情報管理士について、情報システムの基本的な仕組みへの理解やAIリテラシーの向上と病院実習を重視した育成カリキュラムへと移行することで、医療DXを牽引する人材を輩出し、地域医療の質向上と持続可能な医療システムの構築に寄与する。

## ■背景

### 社会動向

#### 医療DX令和ビジョン2030

- ・全国医療情報プラットフォームの創設・医療DX推進機構の設置
- ・電子カルテ情報の標準化・普及
- ・診療報酬改定に伴うDX推進

### 医療現場の課題

#### 医療情報管理に加え、活用への展開

- ・医療データの分析・活用に基づく経営
- ・医療DX導入によるサービス向上・効率化

#### 医療DXの実務を支える人材の不足

- ・情報システムの基本的な仕組みへの理解
- ・データの土台を整備し、分析結果を経営に生かすためのスキル

### これからの診療情報管理士に求められる能力

#### 病院において医療DXを推進できる能力・スキル

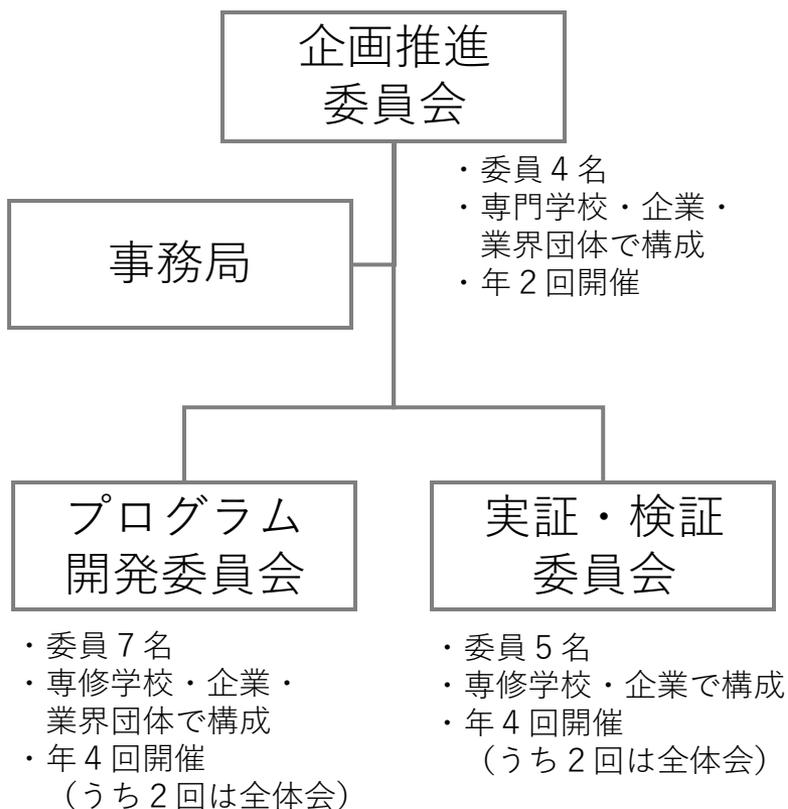
- ・ITに関する基礎理解
- ・医療制度等の基本知識
- ・AIやビッグデータを活用する知識
- ・医療経営への応用できるアウトプット能力
- ・医療現場で適切に連携・情報共有ができるコミュニケーション能力 等

資格取得中心の教育モデルから、

医療DXに対応した実習重視の診療情報管理士の育成カリキュラムへの転換

# 実施体制と期待される役割

## 【実施体制】

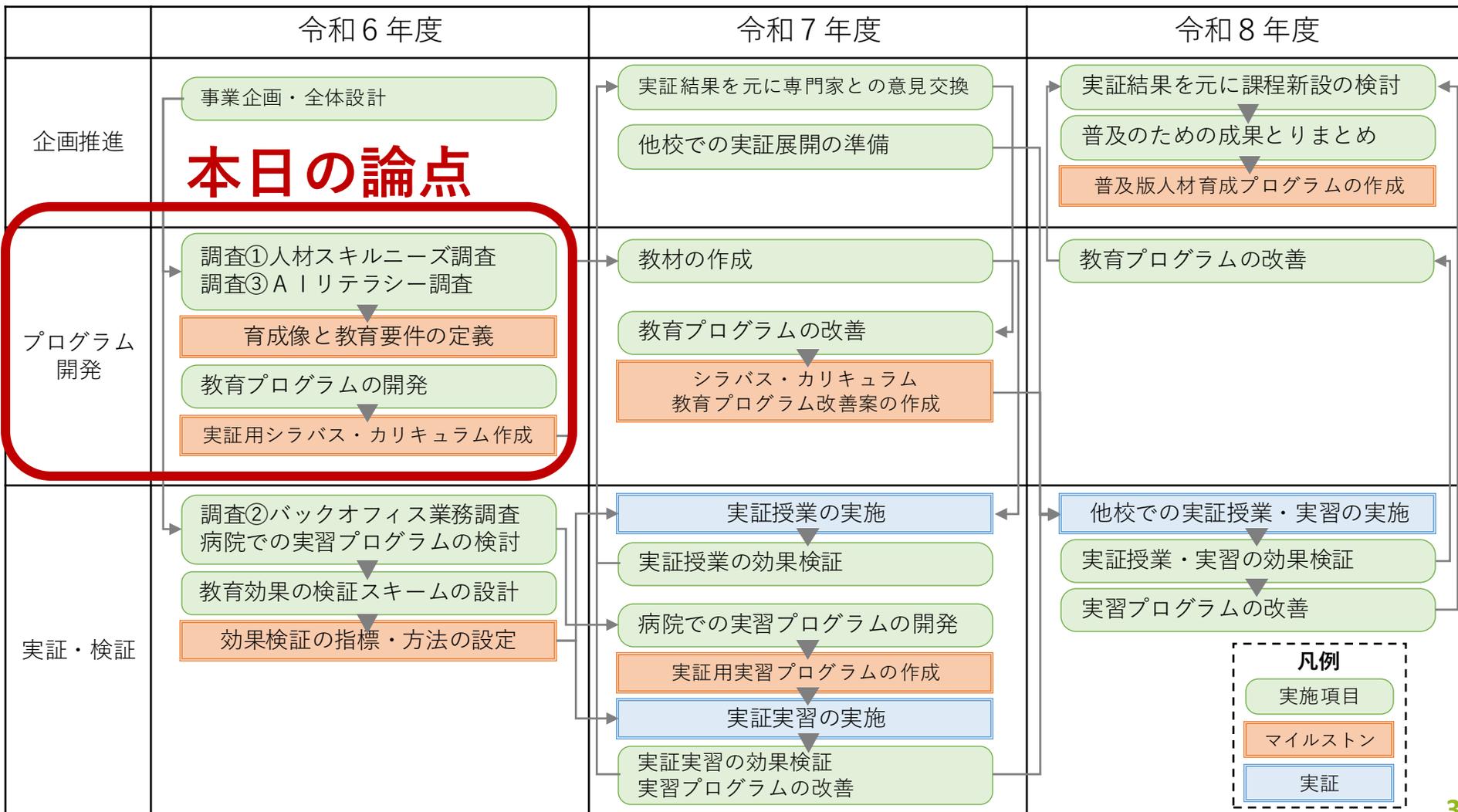


## 【各委員会の役割】

委員会	役割
企画推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業方針や進捗状況、予算執行管理等の統括</li> <li>・事業計画および予算執行に関する管理を担当。</li> <li>・両委員会の進捗状況および会計等事務処理を監督する。</li> <li>・事業推進における課題の洗い出しと対応策の検討。</li> <li>・本事業の普及施策を検討する。</li> </ul>
プログラム開発委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育プログラム開発に必要な情報の調査、教育プログラム開発</li> <li>・病院等にヒアリングを行い、診療情報管理士に求められるスキルや知識を特定する。</li> <li>・特定した必要スキル、知識を分類し、教育カリキュラムに反映させる内容を確定する。</li> <li>・上記をもとに教育プログラムの開発（カリキュラム、シラバス、コマシラバス等）を行う。</li> </ul>
実証・検証委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実証・検証方法の検討、実証・検証結果に基づく改善事項の提案</li> <li>・開発したプログラムの実証方法（授業・実習）の検討、効果の検証を行う。</li> <li>・検証結果をプログラム開発委員会にフィードバックする。</li> </ul>

# 3年間の事業フローとマイルストーン

- 調査事業は事務局中心に実施。開発・実証・検証は各委員会を開催しながら委員協力のもと実施する。



# 本日のアジェンダ

---

## ① 育成像と教育要件の定義に関する議論

### AI人材の観点からの育成像に関する意見交換

本事業（医療現場の業務に資するAI人材育成に向けた学科転換事業）として目指す卒業時点での人材イメージにおいて、違和感や不足を感じる点があるか。

## ② 実証用シラバス・カリキュラム作成に関する議論

カリキュラムツリー、AI関連科目の試作案の意見交換

# キックオフ会議の議論を踏まえた育成像の整理

## 整理指針

- 医療施設における幅広い業務の中でスコープを置いて示していかないと、カリキュラムをどのような形でも想定することができてしまう。そのため、将来の診療情報管理士の育成を意識した上で、目の前の医事業務などから入っていくことを前提に設定。
- ロールモデルとして、AIを活用して医事業務の効率化を担える（プロトタイプの作成と改善プロセスを回せる）人材に焦点。
- 3年後の卒業時点から、バックキャストで育成像を整理。

# ①育成像と教育要件の定義

本事業で目指す

## 卒業時点での育成像 → 違和感・過不足は？

バックオフィス業務・医療事務業務の効率化について、AIを活用<sup>(1)</sup>して、診療情報管理士として必要な知識・情報から医療現場のニーズに基づく改善プロセスの実践<sup>(2)</sup>を企画・実施できる人材

育成像と教育要件（仮説）		該当するカリキュラムの変更・追加部分
(1) AIを活用	<ul style="list-style-type: none"><li>医療システム運用に向け、まずは業務効率化の観点から、AI技術を導入・活用できる</li><li>➤ 業務改善プロセスでのAI技術の活用</li><li>AI活用に関する自己学習を続けるための基礎知識・素養が身についている</li><li>➤ 業務内へのAI技術の導入</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>IT・AIリテラシー</li><li>データ分析・統計学（データサイエンス）</li><li>医療情報技師対策授業（プログラミング、ネットワーク構築、データベース管理、セキュリティ対策等）</li><li>実習のアップデート</li></ul>
(2) 改善プロセスの実践	<ul style="list-style-type: none"><li>医療現場と情報技術の橋渡しをすることができる</li><li>医療現場の業務分析と改善プロセスの考え方を習得している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>IT・AIリテラシー</li><li>医学的知識、専門用語</li><li>コミュニケーション</li><li>実習前後指導等</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>業務改善に向けてデータを用いて検証しながら進めることができる（なぜそういえるか、説明できる）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>データ分析・統計学</li><li>実習のアップデート</li></ul>

# 本日のアジェンダ

---

## ① 育成像と教育要件の定義

### AI人材の観点からの育成像に関する意見交換

本事業（医療現場の業務に資するAI人材育成に向けた学科転換事業）として目指す卒業時点での人材イメージにおいて、違和感や不足を感じる点があるか。

## ② 実証用シラバス・カリキュラム作成

**カリキュラムツリー、AI関連科目の試作案の意見交換  
（別資料をもとに進行）**